テクニカルデータ

赤外線2ピースマイクロホン：ATIR-T85

型式：エレクトレットコンデンサー型
指向特性：単一指向性
赤外光波長：870±30nm
発振方式：PLLシンセサイザー方式
周波数特性：150～12,000Hz
変調方式：FM周波数変調
搬送波周波数
：Aチャンネル・3.04MHz、Bチャンネル・3.48MHz
Cチャンネル・3.70MHz、Dチャンネル・3.84MHz
Eチャンネル・2.06MHz、Fチャンネル・2.48MHz
Gチャンネル・2.70MHz、Hチャンネル・2.82MHz
Iチャンネル・2.56MHz、Jチャンネル・3.20MHz
到達距離（受光ユニット：**ATIR-A40**正面にて）※室内の状況により変化します。

マイク出力切換	受信エリア「広い」（出荷時）	受信エリア「狭い」
ECO	約10m	約5m
LO	約15m	約8m
HI	約20m	約11m

バッテリー：ニッケル水素充電池（本体に実装済み）、
または単3形アルカリ乾電池×2
連続使用時間： ECO時 約11時間（1800mAhニッケル水素充電池使用時）
約10時間（単3形アルカリ乾電池使用時）
LO時 約7時間（1800mAhニッケル水素充電池使用時）
約6時間（単3形アルカリ乾電池使用時）
HI時 約4時間（1800mAhニッケル水素充電池使用時）
約3時間（単3形アルカリ乾電池使用時）
＊連続使用時間は**BC700**で充電完了時の目安です。
外形寸法　**ATIR-T85**：120×60×23mm (ベルトクリップ除く)
質量：約118g (電池含む)
外形寸法　**ATIR-M85**：88.5×28×23mm
コード：φ3.5、1.0m長
プラグ：ミニ+ミニミニL型プラグ
質量：約48g (タイピンクリップ含む)
●付属品：CHシール、ミニドライバー

充電器（別売）：BC700

方式：急速充電
電源：DC12V、500mA
ACアダプター（**AD1205JA**・JEITA規格RC5320A極性統一形プラグ）
充電端子出力：DC4V、400mA×2
標準充電時間：約5.5時間（専用1800mAh充電池）
外形寸法：H96×W158×D66mm
重量：430g
充電池使用温度範囲：放電（機器使用時）：−10℃～+40℃
保存：−20℃～+40℃
充電：+5℃～+40℃
●付属品：ACアダプター（**AD1205JA**）

※システムを運用するには下記製品の組み合わせが必要です。(別売)

・レシーバー
ATIR-R84 (4chレシーバー)
ATIR-R82(E) (2chレシーバー)
ATIR-R82(G) (2chレシーバー)
・受光ユニット
ATIR-A40
ATIR-A41
・赤外線混合分配器 (6in3out)
ATIR-D63
・マイクロホン充電スタンド
BC700
・ニッケル水素充電池（組電池）
HR15/101
・**RP1000 連結プレート**

（改良などのため予告なく変更することがあります。）

赤外線マイクロホンシステム互換表

本システムは下表を参考に、マイクロホン，レシーバーを
組み合わせてご使用ください。

レシーバー ＼ マイクロホン	ATIR-T22A	ATIR-T22B	ATIR-T25	ATIR-T33A	ATIR-T33B	ATIR-T35	ATIR-T88	ATIR-T85
ATIR-R22	○	○	○	×	×	×	※1	※1
ATIR-R33	×	×	×	○	○	○	※2	※2
ATIR-R84	×	×	×	×	×	×	○	○
ATIR-R82(E)	×	×	×	×	×	×	○	○
ATIR-R82(G)	×	×	×	×	×	×	○	○

※1：**ATIR-R22**で使用できる**ATIR-T88**及び**ATIR-T85**は
Eチャンネルと**I**チャンネルのみです。
※2：**ATIR-R33**で使用できる**ATIR-T88**及び**ATIR-T85**は
CチャンネルとJチャンネルのみです。
＊充電器**BC700**は上記互換表に記されている全ての
マイクロホンに使用可能です。
＊受光ユニット **ATIR-A40**、**ATIR-A41**は全ての
レシーバーに使用可能です。

故障かな？と思う前に

マイクの電源が入らない

充電されていますか？
→出荷時は充電されていません。
充電してからご使用ください。

音声が出ない

・レシーバーの出力の切り換えは確かですか？
→接続した機器によってマイク/ラインを切り換えます。
・本体のボリュームまたは接続した機器のボリュームを
絞りきっていませんか？
→ボリュームを上げてください。
・マイクのチャンネル設定がレシーバーと合っていますか？
→A～Hのチャンネル設定をご確認ください。

フル充電しても直ちに電池がなくなってしまう

メモリー効果を起こしていませんか？
→一度使い切ってからまた充電してください。
※上記の操作をしても改善されない場合は、充電池の寿命（約750回の
充放電が目安です）と思われます。新しい充電池と交換してください。

audio-technica®
株式会社オーディオテクニカ
http://www.audio-technica.co.jp

製品保証及び修理などにつきましてはお買い上げのお店、
または別紙記載の弊社営業所までお問い合わせください。

環境保護、資源リサイクルのため
古紙配合率100%再生紙を使用しています。

142313400

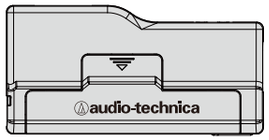
audio-technica®

取扱説明書

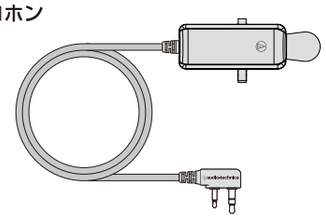
お買い上げありがとうございます。お使いになる前にこの説明書を必ずお読みください。
また保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

赤外線マイクロホンシステム

ATIR-T85
トランスミッター



ATIR-M85 （付属）
マイクロホン



BC700 （別売）
充電器

特 長

●電波を使わない赤外線伝送方式。
隣接した部屋との混信の心配がありません。
●PLLシンセサイザー方式により、送信チャンネルを
簡単な操作で切り換え可能。
●4chレシーバー、2chレシーバー2台の組み合わせ
により、マイクロホンを8本同時に使用可能。
●高音質・高感度のコンデンサーマイクユニット搭載。
●使用する部屋の大きさに合わせて、赤外線出力を
3段階(ECO/LO/HI)に切り換えられる省電力タイプ。
(ECO時は約11時間連続使用可能)
●ラベリア型マイクロホンで会議などのビジネス用に最適。
●持ち運びに便利な軽量コンパクトサイズ。
●簡単に装着できるタイピンクリップ付きで取り付け角度も
調整可能。
●トランスミッターはベルトにクリップ可能。
●BC700は、マイクロホンとトランスミッターを
アタッチメント無しで同時に2本急速充電可能。
マイコン搭載で充電状態を表示。
過充電を防止して電池寿命を大幅アップ。(当社比約1.5倍)

⚠ 注意

●分解しないでください。火災、感電や故障の原因となります。
●振動、衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたり
してけがの原因となることがあります。
●調理台の近く、油、煙や湯気のあたる場所で使わないでください。
火災の原因になることがあります。
●直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い
場所に置かないでください。
●湿度の高い場所に置かないでください。また水がかからないように
してください。誤って水が入ると感電、故障や火災の原因になります。
●梱包のポリ袋は幼児の手の届かない所に置いてください。
また火のそばに置かないでください。
●汚れたときは電源プラグを抜いてから、乾いた柔らかい布で拭き
取ってください。

⚠ 設置上の注意

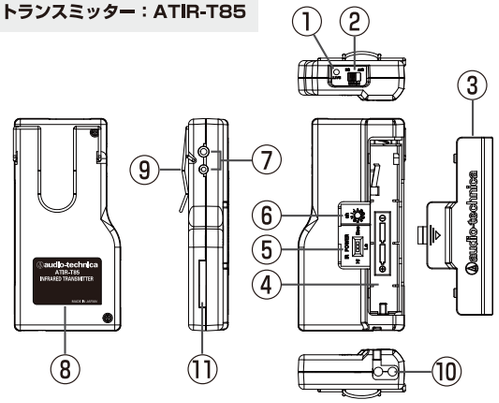
●受光ユニットが高感度なため直射日光の射し込む場所などでは、
ノイズを発生することがあります。その場合はカーテンなどで窓を
覆ってください。
●振動、衝撃の多い場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な
場所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがの原因になる
ことがあります。
●受光ユニットを照明器具の近くやスポットライトの光があたる場所に
設置しないでください。
●調理台の近くなど、油、蒸気、熱のあたる場所には設置しないで
ください。
●振動する場所には設置しないでください。
●赤外線の到達距離は、天井や壁の色や材質によっても変化する場合
があります。
●到達距離とは無関係にノイズが発生する場合があります。その
場合には適切な場所に受光器、レシーバーを設置してください。
●天井に受光器を設置する際は、窓または壁から少なくとも2～3m
離して設置してください。
●壁に受光器を設置する際は、天井から少なくとも2～3m離して
設置してください。
●受光器は、蛍光灯から50cm以上離して設置してください。
●音声ケーブル・受光ユニットケーブルの配線上に大型電気機器が
ある場合に、ノイズが発生する可能性があります。
●プラズマディスプレイ、同時通訳システムなど赤外線を使用した
機器とは、同時使用できない場合があります。
●その他下記の赤外線発生源の近くに受光器、レシーバーを設置する
と、システムの動作不良やノイズが発生する原因となる可能性が
あります。また、マイクロホンについても同様に赤外線やノイズの
発生源に近づけないように注意してください。
・照明装置
・プロジェクター(液晶やDLPなど)、OHP、白熱電球など
・水銀灯、ハロゲン灯、インバータ式蛍光灯、ブラックライト
・プラズマディスプレイ
・リモコン、赤外線マイク、赤外線LANなどの赤外線機器
・調光器
・デジタルパワーアンプなどの、デジタル機器及びその配線
(デジタルパワーアンプのスピーカー出力配線など)

⚠ 電池の注意

●本機は専用ニッケル水素充電池、または別売の単3形乾電池を2本使用します。
電池は同じ種類のものをお使いください。(被覆は剥かないでください)
●極性を逆に入れないでください。マイクロホン本体が損傷することがあります。
●火中に投入、加熱しないでください。
●⊕と⊖を針金などで接触させないでください。
●ハンダ付け、変形、分解、改造はしないでください。
●金属製品と一緒に持ち運んだり、保管はしないでください。
●液もれが起きた場合は、バッテリーケースに付いた液をよく拭き取ってから、
新しい電池を入れてください。万一、漏れた液が身体に付いた時は、水でよく
洗い流してください。
●電池が漏液したり、変色・変形、その他今までと異なることに気づいたときは
使わないでください。
●長い間使わないときは電池を外しておいてください。長時間連続使用された
場合は、早めに新しい電池と交換してください。
●電池は幼児の手の届かない場所に保管してください。万一、飲み込んだ場合は
医者、病院などで処置を受けてください。

各部の名称と機能／使いかた／電池の入れかた

トランスミッター：ATIR-T85



①**電源インジケーター**　電源を入れると電池の残量を表示します。
点灯(グリーン)　：使用可能
点灯(レッド) または 無点灯　：充電してください

②**電源スイッチ**　ON側にスライドさせると電源が入ります。

③**バッテリーカバー**

④**バッテリーケース**

⑤**赤外線出力切り換えスイッチ** (出荷時：LO)
ECO：出力小　LO：標準　HI：出力大
※HI出力の場合は、使用時間が短くなりますのでご注意ください。

⑥**チャンネル切り換えスイッチ** (出荷時：A)
使用するレシーバーのチャンネルに合わせてください。

チャンネル対応表

A	ATIR-R84　A	————
B	ATIR-R84　B	————
C	ATIR-R84　C	ATIR-R33 B
D	ATIR-R84　D	————
E	ATIR-R82　E	ATIR-R22 A
F	ATIR-R82　F	————
G	ATIR-R82　G	————
H	ATIR-R82　H	————
I	————	ATIR-R22 B
J	————	ATIR-R33 A

⑦**音声入力端子A+光用出力端子B**　付属のマイクロホンのプラグを差し込みます。

⑧**定格シール**

⑨**ベルトクリップ**　ベルトなどに差し込みます。

⑩**充電端子部**　充電器に差し込む接点部分です。

⚠ 本機は内蔵の充電池を使用するのが原則ですが、緊急の場合、単3形アルカリ乾電池2個でも使えます。その場合、電池残量表示は正しく表示されません。また、アルカリ電池を使用する時は絶対に充電しないでください。

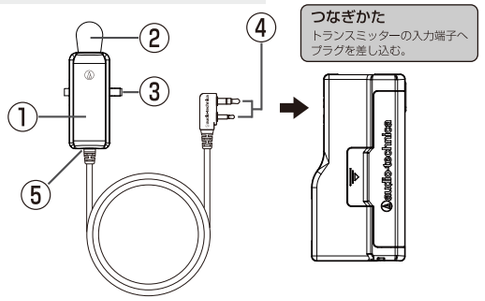
＊電源インジケーターが点灯(レッド)表示ですと受信範囲が狭くなり、ノイズの混入や途切れが発生する場合があります。

⑪**CHチール貼付位置**　必要に応じて付属のCHシール等を貼ります。

⚠ 注意

- トランスミッターの電池残量表示（電源インジケーター）は、あくまでも一つの目安としてご利用ください。
  また、電池残量表示は純正の充電池以外対応しておりませんので必ずトランスミッター専用の充電池をご利用ください。
- ご購入直後の1回目の充電及びトランスミッターの電源スイッチをONにしたままで長期間放置され過放電になっている場合は、1回の充電で十分に充電されない場合がありますので2回充電するようにお願いいたします。
- 過放電の状態によっては電池をいため使用不能になる場合もありますので、トランスミッターの電源インジケーターが消灯したらすぐにトランスミッターの電源スイッチをお切りください。
- 市販の単3形乾電池を使用した場合、トランスミッターの電池残量表示は正しく表示されませんのでご注意ください。
- 電池の極性を逆に入れた場合、故障の原因になります。
- マイクロホンの赤外光発光部及びレシーバーの受光部は手で覆わないでください。また発光部と受光部との間に仕切りや障害物があるとノイズが混入したり、聴こえなかったりする原因になります。
- マイクロホンの赤外光発光部を強く握ったりひねったりしないでください。故障の原因となることがあります。

マイクロホン：ATIR-M85



①**赤外光発光部**　赤外光発光LEDが内蔵されています。

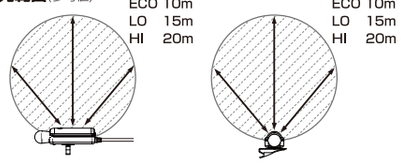
②**マイク**　音声入力用のマイクロホンが内蔵されています。

③**タイピンクリップ**　マイクロホンの固定用クリップです。
縦横に45°向きを変えて固定することができます。

④**接続プラグ(ミニ+ミニミニプラグ)**
トランスミッターの入力端子に接続します。コード長さは、約1mです。

⑤**φ3.5マイク入力端子(プラグインパワー)**
差し込むと内臓マイクが切れます。

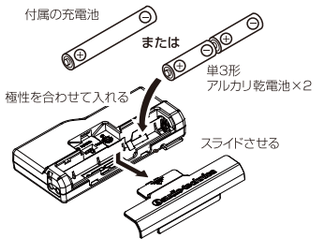
赤外光の発光範囲(参考値)



注意
赤外光の発光面は、手や衣類で覆わないでください。

■電池の入れかた

①**電源をオフにします。**
②**バッテリーカバーの天面の©audio-technicaロゴ上部の▽を親指で押さえ、スライドさせると開きます。**



③**付属の充電池、または単3形アルカリ乾電池をバッテリーケース内の極性に合わせて入れます。**
④**バッテリーカバーを取り付けて完了です。**

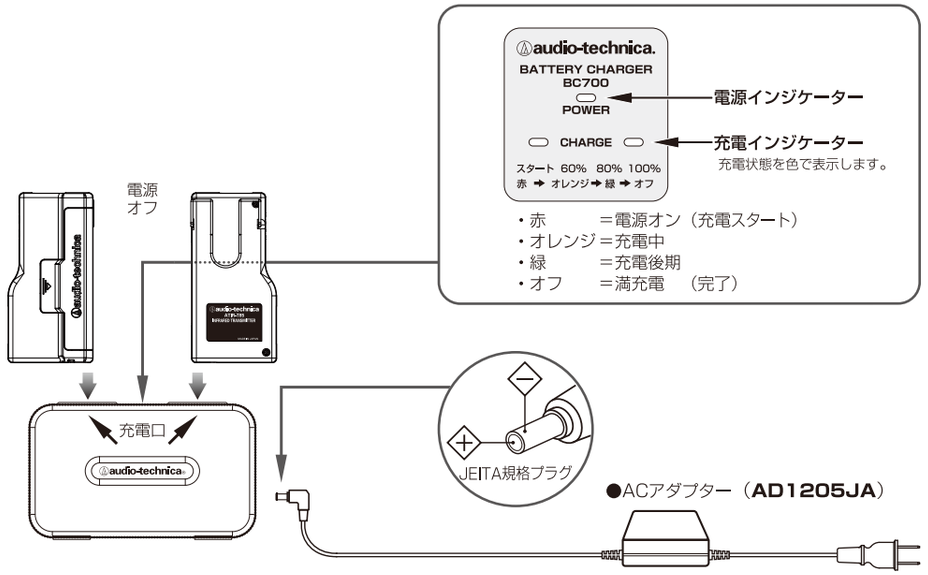
■使いかた

使用上の注意
- 赤外光の到達距離は壁、天井や床などの色や材質によっても変わります。
- 到達距離とは無関係にノイズが発生することがあります。
  その場合は、受光ユニットを適切な位置に取り付け直してください。

＊接続する機器の取扱説明書をあわせてお読みください。

①**トランスミッターを充電します。**
②**付属のマイクロホンをトランスミッター本体の入力端子に接続します。**
③**レシーバーの出力切り換え（マイク←→ライン）を確認します。**
④**レシーバーに受光ユニットをつなぎ、レシーバーの電源を入れます。**
＊電源を入れてから約1秒間は音が出ません。
⑤**マイクロホンと受光ユニット正面との距離はECO 10m/LO 15m/HI 20m以内にします。レシーバーの受信エリアを「狭い」にする場合はECO 5m/LO 8m/HI 11m以内にします。**
(距離は室内の状況により変化します。)
⑥**マイクロホンのタイピンクリップで、胸部中央に取り付けます。**
(この時マイクロホン発光部が体と反対側に向くように取り付けてください。)
⑦**トランスミッターの電源を入れます。**
⑧**マイク音量はお手持ちの機器やレシーバーのボリュームで調整します。**

充電器：各部の名称と機能／充電のしかた



■充電のしかた

①ACアダプターの出力プラグを充電器の外部電源入力ジャック(DC IN 12V)に差し込んでください。
②ACアダプターの電源プラグをAC100Vコンセントに差し込むと電源インジケーター（POWER）が赤に点灯します。
③トランスミッターの電源をオフにしてから、静かに充電口へ差し込みます。
＊電源がオンの状態で充電口に差し込むと、自動的に電源がオフになり、充電が開始されます。(オートオフ機能)
④充電インジケーターは充電中に赤からオレンジに点灯し、満充電近くなると緑に点灯します。
約5.5時間で充電されます。充電池の消耗が少ない時は、自動的に短時間で充電完了します。
＊充電中にトランスミッターを抜いて再度入れると、充電量に関係なく赤色を表示しますので、ご注意ください。
⑤充電インジケーターが消灯すれば、充電完了です。
＊充電状態の表示は目安です。極力、満充電（充電インジケーターが消灯）になってからお使いください。

⚠ 充電池取り扱い上の警告

- この充電池(HR15/101)は**ATIR-T88、ATIR-T85**専用です。
  他の用途に使用しないでください。
- 専用充電器以外では充電しないでください。
- 充電式電池に貼ってあるビニールカバーをはがさないでください。
  ショートして電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。
- 電池を火の中に投入したり、加熱しないでください。火災の原因となります。
- 電池を分解、改造しないでください。
- ⊕と⊖を針金などの金属でショートさせないでください。また金属製品と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- 所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合には、充電をやめてください。
- 電池が漏液したり、変色・変形、その他今までと異なることに気づいたときは直ちに電池をはずして使用しないでください。
- 電池が漏液して液が眼に入ったときは、こすらずにすぐにきれいな水で十分洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。
- 電池が漏液して皮膚や衣服に付着した場合には、直ちにきれいな水で洗い流してください。
- 液もれが起きた場合は、バッテリーケースに付いた液をよく拭き取ってから、新しい電池を入れてください。

＊付属の専用充電池は約750回の繰り返し充電が可能です。

⚠ 充電池取り扱い上の注意

- 充電池にまれに白い粉のようなものが付着することがありますが、故障ではありません。よく拭き取ってから再度ご使用ください。
- 初めてご使用の場合に、サビや異臭、発熱、その他異常と思われたときは使用しないでください。
- 火のそばや直射日光の強いところ、また炎天下の車内などの高温の場所で使用したり、放置しないでください。
- 使用済みの充電池は、産業廃棄物として処理するか当社サービス（下記）へお送りください。なお、送料はお客様ご負担とさせて頂きます。

送付先：〒915-0003　福井県越前市戸谷町87-1
（株）テクニカフクイ武生事業所 サービス課　TEL0778（25）6700

⚠ 充電上の注意

- 平らな場所で充電してください。傾けて使うと充電はできません。
- 本機はトランスミッターを充電器に差し込んで充電が始まると自動的にトランスミッターの電源が切れますが、念のためトランスミッターの電源スイッチをオフにしてから充電してください。トランスミッターの電源スイッチがオンの状態で充電器に差し込むと異音が発生する場合がありますが、使用上問題ありません。
- 充電インジケーターが消灯するまでトランスミッターを使わないでください。
- 充電インジケーターが点滅の場合、ACアダプターの電源プラグを抜いてマイコンのリセットを行ってください。改善しない場合は、故障が考えられます。
- 充電式電池使用の際は、使いきらないうちに充電を繰り返すと、充電状態とは無関係に電池が消耗するメモリー効果と呼ばれる現象が起きます。その場合、一度電池をトランスミッターのインジケーターが消えるまで使い切ってから充電してください。改善されない場合、充電池の寿命の可能性があります。新しい充電池と交換してください。
- 充電しないでスタンドとしてお使いの場合、ACアダプターを抜いてください。
- 充電中付属のACアダプターから熱が発生します。充電器をこのACアダプターの横に設置しますと、温度により電池の電圧が変化し充電が途中で終わり、満充電されないことがあります。充電器はACアダプターの横や高温になる場所には設置しないでください。
- 充電池はその性格上、充電を繰り返すと電池の容量が減少してきます。使用時間が短くなってきましたら、なるべく早く新しい電池と交換されることをお奨めいたします。
- 充電器**BC700**の充電状態の表示は、あくまでも目安ですので、極力満充電（オフ）になってからご使用ください。
- 充電中にトランスミッターを抜いて再度入れると、充電量の確認に約30分かかります。そのあいだ電池の充電量に関わりなく充電インジケーターは充電スタート表示である赤色になりますのでご注意ください。
- トランスミッターの底の充電端子が汚れていると十分に充電できないことがあります。充電端子の汚れを落としてから充電器に入れてください。

＊**BC700**は2台のトランスミッターを同時充電可能です。
出荷時は充電されていません。